

ここで紹介するニュースは、ほとんどの場合、日頃からOS・アプリケーション・アンチウイルスのデータベース等を常に最新の状態に保つこと、併せて、UTM導入等によるネットワーク全体の防御を行うことで対策できます。

●IPAのバージョンチェックツール、.NET対応版もリリース

http://www.forest.impress.co.jp/docs/news/20150217_688682.html
<http://ivndb.ivn.jp/apis/myjvn/vccheckdotnet.html>



このニュースをザックリ言うと…

- 2月12日(日本時間)、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)はPC上のソフトウェアのバージョンを一括でチェックするツール「MyJVNバージョンチェッカ for .NET」をリリースしたことを発表しました。

- 「MyJVNバージョンチェッカ」は元々Java上で動作するものがIPAから出ていましたが、今回.NET Framework 3.0/3.5上で動作するものがリリースされ、Windows Vista以降であればそのままダウンロードして利用可能になりました。

AUS便りからの所感等

- アンチウイルスやUTMの導入によるマルウェア侵入の抑止のみで安心するのではなく、PC上にインストールされているあらゆるソフトウェアが最新のバージョンであることを確認することが、PCとそれが属するネットワークを安全に保つために重要なことです。

- このツールでは網羅しきれていない、メジャーでないツールを導入している場合でも、自動更新機能があればそれを有効にし、もしくは手作業での確認を行うことを必ず行いましょう。

●Lenovo製ノートPCにアドウェア、HTTPS通信をも改ざん・広告を挿入される

<http://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/1502/20/news051.html>
<http://www.lenovo.com/news/jp/ja/2015/02/0220.shtml>



このニュースをザックリ言うと…

- 中国Lenovo社製の2014年6月から今年1月までに出荷されたノートPCに、SSL暗号化通信を改ざんするアドウェアがプリインストールされていたことが報告されました。
- セキュリティ企業Errata Security社によると、問題となったソフト「SuperFish」では、Webブラウザが行うHTTPS通信を仲介し、HTMLデータを書き換えて広告が表示されるようにするという挙動が確認されているとのこと。
- また、SuperFishによる通信の仲介のためにOSにインストールされているSSLルート証明書について、対応する秘密鍵が割り出されており、PCを利用しているユーザが悪意のあるサイトに誘導される可能性が指摘されています。

AUS便りからの所感等

- ユーザとサーバの間で攻撃者が通信の傍受や改ざんを行う、いわゆる「Man In The Middle(中間者)」攻撃が知られている一方、独自のSSL証明書を用いた暗号化通信の解読は、企業向けUTMにおいて本来マルウェアチェックができない暗号化通信でもチェックを行う等の目的で採用されることがあります。
- 今回のケースで問題になっているのは、ユーザの知らない所でインストールされた独自のルート証明書の秘密鍵がクラックされたため、その鍵で署名された不正なサーバ証明書を検知できない可能性があることであり、また、SuperFishのアンインストールだけではルート証明書が削除されないことにも注意が必要です。
- LenovoではSuperFishに関する情報を公開していますので、該当する機種かの確認と、そこで示されている適切なアンインストール方法に従うようにしてください。

●無料翻訳サイトへの入力内容が第三者に閲覧可能な状態に、メール等の機密情報漏洩の恐れ

http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG20H2X_Q5A220C1CC0000/



このニュースをザックリ言うと…

- 2月20日(日本時間)、インターネット上での無料翻訳サイト「Love Translation」において、過去に第三者が入力した内容を閲覧可能であることが報じられました。
- 国内セキュリティベンダーのラック社によれば、入力内容には中央省庁職員が大手電機メーカー担当者に送ったとみられるメールや、金融機関の融資に関する内部のやりとりとみられる内容、また省庁職員の電話番号やメールアドレス等が含まれていた模様です。
- ラック社では、「こうしたクラウドサービスを利用する際には、『自分のデータを事業者側に提供している』ということを理解し、リスクや安全性について把握したうえで使うべき」と注意を呼びかけています。

AUS便りからの所感等

- 報道された内容は厳密には正確ではなく、このサイトはデフォルトで「入力・翻訳した内容をサイト上に保存する」という仕様になっており、オプションによって無効化することも可能だった模様です。
- ともあれ、機密情報が外部に露呈し得るような不適切な利用に注意するべきであり、そういった仕様やオプションの存在を確認してから利用すること、安易に機密情報が含まれた文書を貼り付けないことが重要でしょう。

日本経済新聞 2月22日 [日曜日] English 中文

Web刊 速報 ビジネスリーダー マーケット マネー テクノロジー ライフ スポーツ

全て 経済 企業 国際 政治 性・金融 スポーツ 社会 ニュース18時 その他ジャンル

速報 > 社会 > 記事

翻訳サイト入力の情報、閲覧状態に 中央省庁や大手メーカー
2015/2/20 13:03

小 中 大 保存 印刷 リプリント 共有

インターネット上の無料翻訳サイトに入力した中央省庁や大手メーカーのものでみられるメール内容や翻訳結果が、ネット上で閲覧できる状態になっていることが20日、情報セキュリティー会社への取材で分かった。

この翻訳サイトは、グーグルやヤフーなどの大手サイトではないが、約60カ国の言語に対応している。

ネット上で確認されただけでも、中央省庁職員が大手電機メーカー担当者に送ったとみられるメールや、金融機関の内部で東南アジアの企業への融資についてやりとりしたとみられる内容などがネット上で公開されている。省庁職員の電話番号やメールアドレスも含まれていた。